

都市再生整備計画 事後評価シート
須賀川南部地区(第2期)

令和3年6月

福島県須賀川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	須賀川市		地区名	須賀川南部地区(第2期)			面積	14.8ha		
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1,177百万円	国費率	0.398				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域案内板の整備、モニュメントの整備(句碑)、石畳舗装等の整備(市道1501号線)、石畳舗装等の整備(市道1502号線)、石畳舗装等の整備(市道1414号線)、石畳舗装等の整備(市道1419号線)、石畳舗装等の整備(市道1426号線)、地域交流センターの整備										
		提案事業	軒行灯整備補助、面格子目かくし整備補助、おくのほそ道足跡道標柱整備補助、都市再生整備検討協議会、事業効果分析調査、まちづくり推進事業、まちづくりPR活動										
	事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	モニュメントの整備(句碑)			削除/追加の理由			地元調整の中で歴史的に由緒ある現存する句碑を積極的に活用することとなったため、削除			影響なし	
		提案事業	事業効果分析調査			削除/追加の理由			風流のはじめ館整備の事業効果、分析調査については市単独のアンケート調査などを実施するため、削除			影響なし	
	新たに追加した事業	基幹事業	風流のはじめ館に隣接する民間空地の整備			削除/追加の理由			風流のはじめ館との一体的な交流や賑わいの促進を図るため、追加			指標1、指標3及び指標4に影響するが、他の要因で変動する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く	
基幹事業		観光交流センターの整備			削除/追加の理由			コンセプトの見直しを行い、地域交流センターと観光交流センターの両方の位置付けが必要となったことため、追加			指標1～3に関係するが、地域交流センターの事業規模の減少と合わせ軽微な事業規模の変更のため、指標及び数値目標は据え置く		
提案事業		伝統文化の継承と来訪者への特産品PR			削除/追加の理由			令和元年7月の第2回計画変更にて追加			影響なし		
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和2年度		変更		変更		変更		変更			
		変更	—		変更		変更		変更		変更		
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	路地deマーケット[Rojima]の出店事業者数	店/年総数	640	H28	1,000	R2	—	327	△	ありなし	新型コロナウイルスの蔓延により、イベントの自粛が求められ、減少した。	令和4年度
	指標2	空き家・空き地(駐車場の)減少数	件	37	H27	33	R2	—	48	×	ありなし	地区内の人口減少により、空き家・空き地数が増加した。	令和4年度
	指標3	まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数	回/年	2	H28	10	R2	—	3	×	ありなし	新型コロナウイルスの蔓延により、イベントの自粛が求められ、減少した。	令和4年度
	指標4	歩行者交通量	人	572	R元	617	R7	—	984	○	ありなし	石畳舗装や風流のはじめ館の整備等により、回遊性が向上した。	令和7年度
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	芭蕉記念館・風流のはじめ館入館者数	人	4,748	H29	/	/	/	/	/	風流のはじめ館の整備や南部地区の回遊性の向上などにより、来館者数が増加したと考えられる。	令和4年度	
	その他の数値指標2	南部地区新規出店者数	件	3	H29	/	/	/	/	/	南部地区の魅力や回遊性が向上したことなどにより、新規出店者数が増加したと考えられる。	—	
	その他の数値指標3	芭蕉記念館・風流のはじめ館の貸館利用者数	人	1,973	H22	/	/	/	/	/	風流のはじめ館が整備され、貸館利用が再開したことにより、利用者数が増加したと考えられる。	令和4年度	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ○風流のはじめ館や石畳舗装、軒行灯等の整備によって、南部地区における風流のまちづくりが充実した。 ○軒行灯による夜道も明るい歩行環境の整備や道路舗装による歩きやすい空間の整備により、交通利便性や安全性が向上した。 ○風流のはじめ館の貸館利用の再開や民間空地等の交流空間の整備により、地域のコミュニティ活動が充実した。 												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	なし	実施状況			今後の対応方針等							
	住民参加プロセス	平成30年度風流のはじめ館ワークショップ	実施状況			今後の対応方針等							
	持続的なまちづくり体制の構築	・事業完了後の活動活性化に向けた取組 ・人材育成の取組 ・維持管理費の低減の取組	実施状況			今後の対応方針等							

様式2-2 地区の概要

須賀川南部地区(第2期)(福島県須賀川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
『静かでうれしいおいがある 暮らしやすいまち』～あんみつっ 心でつなぐ 風流のまち～ ・資源の再生や活用・風流のまちづくり ・官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出	路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数	単位: 店/年総数	640 H28	1,000 R2	327 R2
	空き家・空き地(駐車場)の減少数	単位: 件	37 H27	33 R2	48 R2
	まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数	単位: 回/年	2 H28	10 R2	3 R2
	歩行者交通量	単位: 人	572 R元	617 R7	984 R2



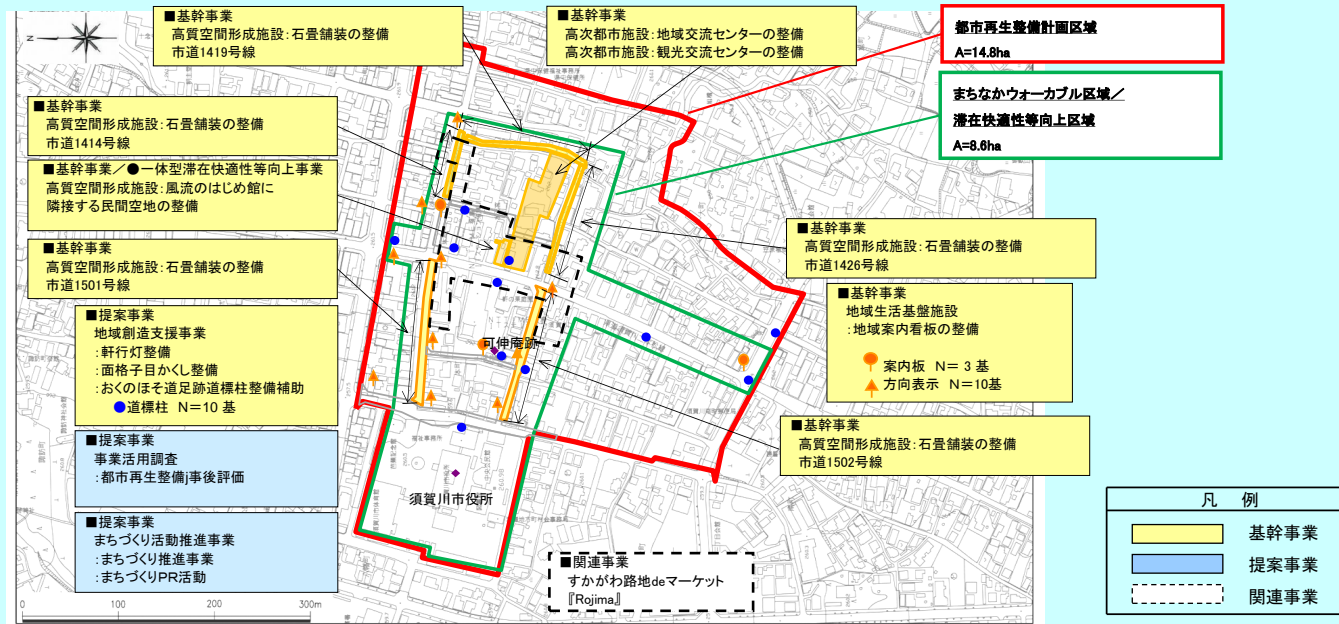
高質空間形成施設



高質空間形成施設



地域創造支援事業



高次都市施設



地域創造支援事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域案内板やおくのほそ道足跡標柱などの本事業で整備したハード施設の効果を市民へ周知していくために、ハードを有効活用した解説やまち案内などのソフト事業や担い手の育成などが求められる。 ・新型コロナウイルスの蔓延により、密を避けるためイベントの中止など地域活動に制限がかかった。安全安心して地域活動を継続できる環境を整えるため、適切な感染症対策が求められる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で整備したハードを利用した、各種のソフト事業を実施することで、観光客が地区の歴史や文化を知る機会を創出し、観光交流人口の増大を図る。 ・住民が地区の歴史や文化を知り、住空間の豊かさを実感する機会を創出することで、シビックプライドを育て自ら風流のまちづくりの担い手となる住民の増大を図る。 ・新規入居・出店希望者に対して、利用可能な空き家、空き地の情報を提供することや、入居しやすい環境づくりなどの支援を実施する。 ・建物所有者が、空き家になる前の段階で、建物の相続や処分方法について相談できるような支援を実施する。 ・市役所や市民交流センターなどの地区内外の公共施設と連携し、地域住民の活動が継続しやすい環境づくりの支援をする。 ・新型コロナウイルスの蔓延を防止するため、感染症対策を徹底し、安全・安心して交流できるまちづくりを進める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		『静かでうるいおいがある 暮らしやすいまち』～あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち～ 資源の再生や活用・風流のまちづくり	『静かでうるいおいがある 暮らしやすいまち』～あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち～ ・資源の再生や活用・風流のまちづくり ・官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出	まちなかウォークアブル推進事業へ位置づけたことから、目標に「官民一体となったにぎわいのある歩行空間の創出」を追加
B. 目標を定量化する指標	●		指標1「路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数」 指標2「空き家・空き地(駐車場)の減少数」 指標3「まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数」	指標1「路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数」 指標2「空き家・空き地(駐車場)の減少数」 指標3「まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数」 指標4「歩行者交通量」	一体型滞在快適性等向上事業の効果を検証するため、指標4を追加
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設	地域案内板の整備	13.0	案内板:3基 方向表示:10基	8.0	案内板:3基 方向表示:10基	事業費を精査した結果、事業費減	影響なし		●
高質空間形成施設	モニュメントの整備(句碑)	3.0	3基	-	-	令和元年7月の第2回計画変更にて削除 地元調整の中で歴史的に由緒ある現存する句碑を積極的に活用することとなったため	影響なし	-	-
高質空間形成施設	石畳舗装等の整備(市道1501号線)	24.0	道路改良、側溝整備 延長144m	68.0	道路改良、側溝整備 延長144m	一部道路の拡幅が必要になったことと、住環境の向上と回遊性を高めるため通常As舗装から石畳み風As舗装に施工方法を変更するため、事業費増	指標1～3に関係するが、軽微な事業規模の変更のため、指標及び数値目標は据え置く		●
高質空間形成施設	石畳舗装等の整備(市道1502号線)	24.0	道路改良、側溝整備 延長144m	68.0	道路改良、側溝整備 延長144m	同上	同上		●
高質空間形成施設	石畳舗装等の整備(市道1414号線)	12.0	道路改良、側溝整備 延長67m	34.0	道路改良、側溝整備 延長67m	同上	同上		●
高質空間形成施設	石畳舗装等の整備(市道1419号線)	13.0	道路改良、側溝整備 延長130m	29.0	道路改良、側溝整備 延長127m	同上	同上		●
高質空間形成施設	石畳舗装等の整備(市道1426号線)	16.0	道路改良、側溝整備 延長123m	55.0	道路改良、側溝整備 延長120m	同上	同上		●
高質空間形成施設	風流のはじめ館に隣接する民間空地の整備	-	-	33.0	270㎡	令和2年1月のまちなかウォークアブル推進事業への位置づけに伴い、追加風流のはじめ館との一体的な交流や賑わいの促進を図るため	指標1、指標3及び指標4に影響するが、他の要因で変動する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く		●
高次都市施設	地域交流センターの整備	816.0	木造 平屋建て 延床面積1,000㎡	367.0	木造 平屋建て 延床面積337㎡	コンセプトの見直しを行い、地域交流センターと観光交流センターの両方の位置付けが必要となったことため、変更	指標1～3に関係するが、観光交流センターの追加と合わせて軽微な事業規模の変更のため、指標及び数値目標は据え置く	●	
高次都市施設	観光交流センターの整備	-	-	449.0	木造 平屋建て 延床面積402㎡	令和元年7月の第2回計画変更にて追加 コンセプトの見直しを行い、地域交流センターと観光交流センターの両方の位置付けが必要となったことため	指標1～3に関係するが、地域交流センターの事業規模の減少と合わせて軽微な事業規模の変更のため、指標及び数値目標は据え置く	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	軒行灯整備	10.0	住民による軒行灯の整備費用200件の補助	10.0	住民による軒行灯の整備費用200件の補助	なし	—	●	
	面格子目かくし整備	5.0	景観の趣きある町並みの創出と問題点の洗い出しのワークショップ及び課題解決に取り組む整備費用補助	5.0	景観の趣きある町並みの創出と問題点の洗い出しのワークショップ及び課題解決に取り組む整備費用補助	なし	—		●
	おくのほそ道足跡道標柱整備補助	5.0	まちづくり団体が実施する標柱設置計画費用、設置費用及びマップ作成費用補助 N=10	5.0	まちづくり団体が実施する標柱設置計画費用、設置費用及びマップ作成費用補助 N=10	なし	—	●	
	伝統文化の継承と来訪者への特産品PR	—	—	2.0	伝統文化継承のための大型屋台の改修・土産品の開発	令和元年7月の第2回計画変更にて追加	影響なし		●
事業活用調査	都市再生整備計画事後評価	4.0	地域住民や団体を委員とした都市再生整備検討協議会を発足し、事業モニタリングを行う	6.0	都市再生整備計画の事後評価	下記の事業効果分析を併せるため、事業費増	影響なし		●
	事業効果分析調査	13.0	(仮称)文化創造伝承館整備による事業効果の分析調査	—	—	風流のはじめ館整備の事業効果、分析調査については市単独のアンケート調査などを実施するため、削除	影響なし	—	—
まちづくり活動推進事業	まちづくり推進事業	25.0	イベントの企画やワークショップにかかる専門家派遣	17.8	イベントの企画やワークショップにかかる専門家派遣	開館準備支援等のワークショップについて、開催回数が増えたことから、事業費減	影響なし	●	
	まちづくりPR活動	25.6	(仮称)文化創造伝承館を活用したまちづくりのPR/パンフ、映像等作成費用 ・風流のまちづくりPR映像等作成費用 ・相楽等躬生誕380周年記念事業	20.2	(仮称)文化創造伝承館を活用したまちづくりのPR/パンフ、映像等作成費用 ・風流のまちづくりPR映像等作成費用 ・相楽等躬生誕380周年記念事業	須賀川宿のまちなみ、芭蕉の足跡体験等について、その中のVR等の事業については実施時期を見直すこととなり、事業費減	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
すかがわ路地deマーケット『Rojima』		南部地区	—	0.0	—	平成27年度～	年10回開催しているが、令和2年以降は、新型コロナウイルスの蔓延により、中止回数が増加している。	—

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	路地deマーケット 『Rojima』の出店事業者数	店/年総数	『Rojima』の出店事業者数について、事務局が事前申し込みを受け付けて計測した。	—	—	640	H28	1,000	R2	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定見込み	●	327	事後評価	
指標2	空き家・空き地(駐車場の減少数)	件	・水道の閉栓情報及び町内会長ヒアリングにより空き家等の目安を付けたうえで、調査マニュアルに従い、調査員が調査区域を巡回し目視により空き家等を計測した。	—	—	37	H27	33	R2	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定見込み	●	48	事後評価	
指標3	まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数	回/年	イベント開催数の実績を計測した。	—	—	2	H28	10	R2	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定見込み	●	3	事後評価	
指標4	歩行者交通量	人	南部地区内の4地点(岡村酒店前、北山ビル前、旧大東銀行須賀川支店前、フレッシュマートかんの前)の休日の歩行者交通量を計測した。	456	H20	572	R元	617	R7	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定見込み	●	984	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	令和2年度の評価値は327店であり、目標値の1,000店には達していない。主な要因として、令和2年は新型コロナウイルスの蔓延が挙げられる。開催1回当たりの平均出店者数は、平成30年度、令和元年度と増加しており、令和2年度も従前値の平均より増加していることが確認されている。	新型コロナウイルスの蔓延による影響が大きく出た。
指標2	令和2年度の評価値は48件であり、目標値の33件には達していない。	—
指標3	令和2年度の評価値は3回であり、目標値の10回には達していない。平成30年度までは増加傾向であったが、新型コロナウイルスの蔓延により、イベント開催の自粛が求められる状況であったことが主な要因である。	新型コロナウイルスの蔓延による影響が大きく出た。
指標4	令和2年度のモニタリング値は984人であり、令和7年度の目標値の617人に達している。石畳舗装やおくのほそ道足跡標柱などの整備により、地区内の回遊性が向上していることが主な要因である。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	芭蕉記念館・風流のはじめ館入館者数	人	10,091	H19	4,748	H29	モニタリング	—	—	芭蕉記念館・風流のはじめ館の来館者数を評価することで、風流のまちとして対外的に情報が発信され、どれだけ交流人口の増加に寄与したかを測定することができる。	—
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2	南部地区新規出店者数	件	—	—	3	H29	モニタリング	—	—	南部地区新規出店店舗数を評価することで、地区の整備効果がまちなかの暮らしやすさ及び商業的賑わいの向上にどれだけ寄与したかについて測定することができる。	—
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3	芭蕉記念館・風流のはじめ館の貸館利用者数	人	2,497	H19	1,973	H22	モニタリング	—	—	芭蕉記念館・風流のはじめ館の貸館利用者数を評価することで、地域住民の交流・活動の場の増加にどれだけ寄与できたかを測定することができる。	—
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 風流のはじめ館や石畳舗装、軒行灯等の整備によって、南部地区における風流のまちづくりが充実した。
- 軒行灯による夜道も明るい歩行環境の整備や道路舗装による歩きやすい空間の整備により、交通利便性や安全性が向上した。
- 風流のはじめ館の貸館利用の再開や民間空地等の交流空間の整備により、地域のコミュニティ活動が充実した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
平成30年度風流のはじめ館ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ①実施回数:計5回 ②実施時期:平成30年度 ③実施結果:参加者から提案された名称案から施設名称「風流のはじめ館」を決定したほか、より愛着を持ってもらえるように、出された提案を参考に、エリアに呼称「芭蕉・等躬の庵」「郷学の間」「四季彩の庭」を付けた。庭は俳句の題材になるよう多種多様な草木を植栽し、学校では教えないことを学べる場所として多目的室を設置した。また、施設を中心にまちなか回遊の起点となるよう“通り庭”形式とした。 	今後も施設の維持管理運営への継続的な市民参画機会の創出を検討し、市民と行政との協働を推進する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
事業完了後の活動活性化に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1期計画から軒行灯整備などの『風流』のまちづくりに携わっているNPO法人チャチャチャ21などが中心となり、地元団体との協働体制を確立することで、事業完了後も地元住民が主体性を持ったまちづくりが継続される 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人チャチャチャ21 「歴史と文化の再発見こそまちづくりの原点」との理念のもとに、市民が主体となり市民活動団体等と積極的に連携し、広く内外に向けた須賀川の情報発信に関する事業の展開を図ると共にまちづくり活動を推進 	事業完了後も地元団体への必要な支援や情報共有を適切に実施し、官民協働の取組みを促進する。
人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史ある名所や句碑などの地域資源を活用し、文化団体や学校などとの連携を図る事業を展開することにより、文化を通じた地域の結びつきや、郷土の偉人を深く知ることが出来、故郷に対する誇りや愛着が生まれ、新たな担い手が育成される 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人チャチャチャ21 	各文化団体の活動範囲や連携先の拡充を図るなど、文化団体の主体的な活動を支援し、官民協働での風流のまちづくりを促進する。
維持管理費の低減の取組	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1期計画で整備された馬町広場「結の辻」の日常管理(清掃、草刈り)や植花活動 ・敷地内イベントを実施した団体に清掃等を義務付ける ・軒行灯の電気代をすべて設置者の負担とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「風流のまち創出プロジェクト」4町内会で結成する団体 ・NPO法人チャチャチャ21 	イベント時の清掃や電気代の設置者負担などの官民協働の取組みを促進する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	須賀川南部地区(第2期)都市再生整備計画の関係各課職員(道路河川課、文化振興課、商工課、観光交流課、企画政策課、建築住宅課、都市計画課)	令和3年2月24日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標4		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指標名		歩行者交通量		芭蕉記念館・風流のはじめ館入館者数		南部地区新規出店者数		芭蕉記念館・風流のはじめ館の貸館利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設/地域案内板の整備	◎	・風流のはじめ館、石畳舗装や面格子目隠しなどの整備により、回遊性が向上した。	○	・石畳舗装や面格子目隠しなどの整備により、回遊性が向上した。 ・軒行灯やおくのほそ道足跡標柱などの整備により、風流を感じるまちづくりが推進された。 ・風流のはじめ館が整備され、展示も刷新されたことにより、施設の魅力が向上した。	○	・石畳舗装や面格子目隠しなどの整備により、回遊性が向上した。 ・道路舗装や風流のはじめ館の整備により、南部地区の魅力が向上した。	○	・風流のはじめ館の整備により、貸館利用の再開と市民交流スペースが新設され、市民団体等の利用が促進された。
	高質空間形成施設/石畳舗装等の整備(市道1501号線)	◎							
	高質空間形成施設/石畳舗装等の整備(市道1502号線)	◎							
	高質空間形成施設/石畳舗装等の整備(市道1414号線)	◎							
	高質空間形成施設/石畳舗装等の整備(市道1419号線)	◎							
	高質空間形成施設/石畳舗装等の整備(市道1426号線)	◎							
	高質空間形成施設/風流のはじめ館に隣接する民間空地の整備	◎							
	高次都市施設/地域交流センターの整備	◎							
提案事業	高次都市施設/観光交流センターの整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創造支援事業/軒行灯整備	◎	○	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業/面格子目かくし整備	◎	○	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業/おくのほそ道足跡標柱整備補助	◎	○	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業/伝統文化の継承と来訪者への特産品PR	—	—	—	—	—	—	—	
	事業活用調査/都市再生整備事業評価	—	—	—	—	—	—	—	
関連事業	まちづくり活動推進事業/まちづくり推進事業	○	○	○	○	○	○	○	
	まちづくり活動推進事業/まちづくりPR活動	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
関連事業	すかがわ路地deマーケット[Rojima]	—	—	—	—	—	—	—	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標4	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
	・ソフト事業の実施により、道路利用者によって魅力のあるまちづくりを推進し、さらに回遊性を向上 ・南部地区へのアクセス性の向上	・ソフト事業の実施により、道路利用者によって魅力のあるまちづくりを推進し、さらに回遊性を向上 ・市民交流センターなど周辺の公共施設との相互利用を促進 ・情報発信の強化	・商店街のイベント等による賑わいの創出と情報発信強化 ・Rojimaなどのイベント時の一時的な出店機会の創出 ・空き家バンクの活用促進等による新規出店・入居希望者と空き家オーナーとのマッチングの促進	・利用者による活動発表や展示等を実施し、情報発信を強化 ・幅広い世代への貸館利用促進のための情報発信 ・市民交流センターとの連携

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3						
指標名		路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数			空き家・空き地(駐車場)の減少数			まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数						
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	地域生活基盤施設／地域案内板の整備	△	・石畳舗装や面格子目隠しなどの整備により、回遊性が向上した。 ・風流のはじめ館や隣接する民間空地、周辺の市民交流センターなど地区内外に交流空間が増加したことにより、交流が促進された。 ・新型コロナウイルスの蔓延により、開催中止数が増加し、参加者数が減少した。	Ⅲ	△	・風流のはじめ館や石畳舗装、面格子目隠しなどの整備により、南部地区の魅力が向上した。 ・市内人口及び南部地区の人口が減少した。	Ⅰ	—	・風流のはじめ館や隣接する民間空地の整備により、イベント利用が可能なが増加した。 ・新型コロナウイルスの蔓延により、イベント開催の自粛が必要であった。	Ⅲ	△			
	高質空間形成施設／石畳舗装等の整備(市道1501号線)	△			△			△						
	高質空間形成施設／石畳舗装等の整備(市道1502号線)	△			△			△						
	高質空間形成施設／石畳舗装等の整備(市道1414号線)	△			△			△						
	高質空間形成施設／石畳舗装等の整備(市道1419号線)	△			△			△						
	高質空間形成施設／石畳舗装等の整備(市道1426号線)	△			△			△						
	高質空間形成施設／風流のはじめ館に隣接する民間空地の整備	△			△			△						
	高次都市施設／地域交流センターの整備	△			△			△						
提案事業	高次都市施設／観光交流センターの整備	△	△	△										
	地域創造支援事業／軒行灯整備	△	△	△										
	地域創造支援事業／面格子目かくし整備	△	△	△										
	地域創造支援事業／おくのほそ道足跡道標柱整備補助	△	△	△										
	地域創造支援事業／伝統文化の継承と来訪者への特産品PR	—	—	—										
	事業活用調査／事業効果分析調査	—	—	—										
関連事業	まちづくり活動推進事業／まちづくり推進事業	△	△	△										
	まちづくり活動推進事業／まちづくりPR活動	△	△	△										
関連事業	すかがわ路地deマーケット『Rojima』	△	△	△										

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・ソフト事業の実施により、道路利用者によって魅力のあるまちづくりを推進し、さらに回遊性を向上 ・南部地区へのアクセス性の向上 ・感染症対策の徹底	・空き家バンクの活用促進等による新規出店・入居希望者と空き家オーナーとのマッチングの促進	・イベントの企画・開催の窓口や方法の周知強化 ・個別の交流空間を連携したイベント利用の促進 ・感染症対策の徹底
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	須賀川南部地区(第2期)都市再生整備計画の関係各課職員(道路河川課、文化振興課、商工課、観光交流課、企画政策課、建築住宅課、都市計画課)	令和3年2月24日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
震災により、空き家・空き地が増加している。	風流のはじめ館や石畳舗装、面格子目隠しなどが整備されたことで、歩きやすさや景観が向上し、南部地区の魅力が向上したことで、新規出店店舗数の増加に寄与した。また、Rojimaの出店者が地区内にある空き店舗(民間事業者によるリノベーション済)を活用し、新たに店を構えるなどの効果も出始めている。	空き家、空き地、駐車場は増加しており、空き家、空き地、駐車場の有効活用を図ることが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域案内板やおくのほそ道足跡標柱などを整備したため、それらを活用した解説や案内などのソフト展開が求められる。 ・新型コロナウイルスの蔓延により、イベント実施に際しては密を避ける必要があり、適切な感染症対策が求められる。
来訪者受入れの拠点である芭蕉記念館が震災で無くなったことから発信力の低下と観光客が減少している。	コロナ禍においても、Rojimaの1回平均の出店者数が80店舗を超えており、Rojimaが地域内外に対してブランドとして認知されていることが確認できた。風流のはじめ館が整備されたことにより、風流のまちづくりの情報発信が強化され、来館者数の増加に寄与した。石畳舗装や地域案内板などが整備されたことにより、南部地区の回遊性が向上し、歩行者交通量が増加した。	ホームページやSNSなどを通じた情報発信の更なる強化が求められる。南部地区と周辺の施設等と連携した情報発信を実施することで、観光客へのPRを強化することが求められる。	
地域住民の交流の場や文化団体の活動の場が減少したことにより、地域住民の活性化とその継続性が失われている。	風流のはじめ館が整備されたことにより、貸館利用が再開され、市民交流スペースが新設されたことで、地域住民の活動の場の増加に寄与した。風流のはじめ館の利用者属性の幅が広がり、多様な市民の交流の場となっている。風流のはじめ館に隣接する民間空地や石畳舗装が整備されたことにより、地区内の屋外交流空間が増加し、イベント利用など地域住民の活性化につながった。	風流のはじめ館は、令和2年10月に開館したばかりであり、地域住民の交流や活動が持続的に行われるような環境づくりが求められる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	ソフト事業の拡充	本事業で整備したハードを利用した各種のソフト事業を実施し、観光客が地区の歴史や文化を知ることができる機会の創出や、居心地の良さを向上させることで、観光交流人口の増大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 貸館利用の情報発信の強化 標柱巡りツアーの実施 俳句大会の実施 翻訳アプリの導入などによるインバウンドへの対応 英語(外国語)が話せるガイド育成 南部地区エリアプラットフォームによる事業展開(代表者:都市再生推進法人(株)テダソチマ)
	風流のまちづくりの担い手の育成	住民が地区の歴史や文化を知り、住空間の豊かさを実感する機会を創出することで、シビックプライドを育て自ら風流のまちづくりの担い手となる住民の増大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を発掘するためのワークショップの開催 市民活動の発表や展示空間の充実 文化団体と学校などが連携した教育機会の創出 案内人の育成 英語(外国語)が話せるガイドの育成

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	新規入居・出店希望者に対する相談支援体制の整備	新規入居・出店希望者に対して、利用可能な空き家。空き地の情報を提供することや、入居しやすい環境づくりなどの支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンクの活用促進(R3.1.15～空き家バンク協定締結 ※都市再生推進法人(株)テダソチマ⇄須賀川市) イベントなど短期的、一時的なチャレンジ出店機会の創出
	建物所有者に対する相談支援体制の整備	建物所有者が、空き家になる前の段階で、建物の相続や処分方法について相談できるような支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンクの活用促進(R3.1.15～空き家バンク協定締結 ※都市再生推進法人(株)テダソチマ⇄須賀川市) 不動産に関する勉強会の開催支援
	南部地区内及び周辺の諸施設との連携強化	市役所や市民交流センターなどの地区内外の公共施設と連携し、地域住民の活動が継続しやすい環境づくりの支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> 各施設における相互の情報発信 5G回線を活用した情報発信方法の検討
	感染症対策の徹底	新型コロナウイルスの蔓延を防止するため、感染症対策を徹底し、安全・安心して交流できるまちづくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> アルコール消毒、検温などの感染症対策の実施 5G回線を活用したイベント開催の検討(3密防止)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定 ●	見込み ○		あり ●	なし ○	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数	店/年総数	640	H28	1,000	R2	確定 ●	見込み ○	327	△	あり ●	なし ○	令和4年度	『Rojima』の出店事業者数について、事務局が事前申し込みを受け付けて計測する。	新型コロナウイルスによる自粛期間終息後に実施する。
指標2	空き家・空き地(駐車場)の減少数	件	37	H27	33	R2	確定 ●	見込み ○	48	×	あり ●	なし ○	令和4年度	・水道の閉栓情報及び町内会長ヒアリングにより空き家等の目安を付けたうえで、調査マニュアルに従い、調査員が調査区域を巡回し目視により空き家等を計測する。	新型コロナウイルスによる自粛期間終息後に実施する。
指標3	まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催	回/年	2	H28	10	R2	確定 ●	見込み ○	3	×	あり ●	なし ○	令和4年度	イベント開催数の実績を計測する。	新型コロナウイルスによる自粛期間終息後に実施する。
指標4	歩行者交通量	人	572	R2	617	R7	確定 ●	見込み ○	984		あり ●	なし ○	令和7年度	「須賀川市中心市街地歩行者通行量調査業務報告書」より把握する。	目標値の基準年度は令和7年度である。
その他の数値指標1	芭蕉記念館・風流のはじめ館入館者数	人	4,789	H29			確定 ●	見込み ○	8,220				令和4年度	風流のはじめ館の一般入場者数、貸館入場者数、団体入場者数の合計値を計測する。	新型コロナウイルスによる自粛期間終息後に実施する。
その他の数値指標2	南部地区新規出店者数	件	3	H29			確定 ●	見込み ○	7				—	—	—
その他の数値指標3	地区内の活動団体数	人	1,973	H29			確定 ●	見込み ○	2,036				令和4年度	風流のはじめ館の貸館利用者数を計測する。	新型コロナウイルスによる自粛期間終息後に実施する。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・風流のはじめ館の整備や石畳舗装の整備などにより、地区の回遊性が向上し、歩行者交通量が増加した。	・新型コロナウイルスの状況を踏まえて、賑わいや交流に関わる数値指標を検討する。
	うまくいかなかった点	・まちの賑わいや活性化に係る指標については、新型コロナウイルスの蔓延が影響したため、適切な数値の計測ができたとは言えない。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・市で継続的に計測していたその他の指標を用いることで、目標の達成を評価することができた。	・社会状況から減少することが予測される指標については、長期的に推移を把握できることが望ましい。
	うまくいかなかった点	・指標2「空き家・空き地(駐車場)の減少数」は、短期的に効果が発現しにくいことから、別の指標を検討することが望ましい。また、自然減と事業効果の区別をするために、新規流入件数も併せて把握することが望ましい。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・風流のはじめ館の計画において、市民参加型のワークショップを開催し、地域住民の要望・意見を反映して計画を策定した。	・施設整備の段階に応じて住民参加を実施していくことが、施設の運営段階においても、施設と地域の連携を図るために有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・所管、関係課が参加した庁内会議を通じて、都市再生整備計画事業の整備効果を次のステップのまちづくりの個別事業につなげていくことが確認された。	・効果発現要因の確認や今後のまちづくり方策などの検討にあたっては、所管、関係各課による幅広い視点から検討を行い、個別事業の整理を行うことが有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

本事業は、まちなかウォークラブル推進事業として計画期間を令和7年度まで延長する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	—	—	—	—	—
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	—				
-------	---	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	市岡 綾子(日本大学工学部建築学科)	令和3年3月22日	都市計画課	須賀川南部地区(第2期) 都市再生整備事業評価 委員会設置要綱	須賀川市
その他の委員	近藤 孝一(大町町内会長) 近藤 次雄(本町町内会長) 佐藤 富二(八幡町町内会長) 小林 一夫(馬町町内会長) 大倉 秀夫(チャチャチャ21理事長) 大木 和彦(都市再生推進法人) 菊地 大介(商工会議所 副会頭) 高橋 亜純(風流のはじめ館 館長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・Rojimaについて、令和2年度は計4回の開催であったことを踏まえると、1回平均約80店舗の出店があり、コロナ禍でも一定の出店者数が維持されたことは、Rojimaがブランド化したということで評価できる。従前指標だけでは分かりにくい場合には、分かり易い指標として平均出店者数の増加を説明した方が良いのではないかと。 ・Rojimaへの出店から南部地区の新規出店につながった店舗が1店舗でもあることは評価できる。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・整備されたハードに対して、それらを有効に活用するために地域住民の地区の歴史の理解や外国人への対応力などの意識向上を図ることが重要である。 大型屋台など、住民が地域に誇りを持つことやそれによって繋がるきっかけとなる資源を発掘して、見えるようにすることで住民の地域への誇りや帰属意識が高まる。 ・町人文化によってつくられたまちである歴史を踏まえ、まちづくりに参加することの間口を広くすることが求められる。 ・空き家になる前の段階での対策が必要である。例えば、意思能力がはっきりしている時点で、家の相続や処分の方針を決められる人が増えることが望ましいため、勉強会の実施や相談支援することなどが考えられる。
	フォローアップ	・インフラ整備と人口の流入の間には時間差があるため、将来的にフォローアップする数値をもとに分析してほしい。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---

都市再生整備計画(第1回変更)

須賀川市南部 地区(第2期)

福島県 すかがわし
須賀川市

令和3年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	すかがわし 須賀川市	地区名	須賀川市南部 地区	面積	14.8 ha
計画期間	平成 30 年度 ~	令和 7 年度	交付期間	平成 30 年度 ~	令和 2 年度		

目標
 大目標:『静かでうるいおいがある 暮らしやすいまち』～あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち～
 ・資源の再生や活用・風流のまちづくり
 ・官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 須賀川市は福島県中通り地域に位置しており、北は郡山市、西は天栄村、南は鏡石町、玉川村、東は平田村の1市1町3村に隣接する。平成17年4月1日に隣接する旧岩瀬村及び旧長沼町と1市1町1村による市町村合併が行われた。合併後の新市の名称も「須賀川市」となり、郡山市に次ぐ県中の副次都市としてさらに位置づけが高まってきている。
 本地区は、かつて松尾芭蕉が8日間逗留した相楽等躬毛があったため、その周辺区域を対象に平成20年度から24年度まで南部地区都市再生整備事業の事業認可を受け、『風流』をテーマとしたまちづくりを実施し、景観に配慮した都市空間を形成するとともに、地元活動の拠点整備や住民による防災活動の促進を図ってきた。そのなかで、県道に面した住民達が自己建築物に対して景観協定を締結したことにより、地域内に景観に配慮された建築物が増加しているとともに、他の地区内住民も景観協定を参考とした改築を行う事例が増え続けている。
 本市から県都福島市まで約55km、仙台市まで約140kmの距離にある。鎌倉時代以降は城下町として、天正年間以降は奥州街道屈指の宿場町として発達してきた。合併後の市土面積は279.43km²で平成28年2月1日現在、人口77,393人、26,405世帯を数える。また、市内の交通網については、東北縦貫自動車道、国道4号、東北新幹線、JR東北本線、水郡線が通り、さらに空の玄関口である福島空港を有するなど広域的な交通の利便性は非常に高い。
 東日本大震災により、南部地区の重要な活動の拠点であった『芭蕉記念館』が被災し、現在は民間施設内に仮設で運営しているが、市民からは早急な再建が求められている。

課題: まちのスポンジ化による景観とにぎわいの喪失
 ①震災により、空き家・空き地が増加。
 ②来訪者受け入れの拠点である芭蕉記念館が震災で無くなったことから発信力の低下と観光客が減少。
 ③地域住民の交流の場や文化団体の活動の場が減少したことにより、地域住民の活性化とその継続性が失われつつある。

まちづくりの方針
 ①震災により、本市は全壊1,249棟、大規模半壊418棟、その他半壊や一部損壊を含めるとその被害は15,332棟(H25.3.29)となり、本地区でも歴史性ある蔵や文化団体の活動の拠点となっていた芭蕉記念館が被災し、現在、空き家が16件、空き地21件となっている。だが平成27年6月、市の若者職員を中心にまちづくり団体が動き出し、『すかがわ路店deマーケット(以下Rojima)』が本地区の空き家、空き地を活動拠点とし、Rojimaを自己資金により運営を行っている。市では震災で失われた景観の再生やまちづくり団体や文化団体の活動支援として回遊性を高める景観を創出し、さらにRojimaなどのイベントが活性化される土壌を整備する。
 ②本市街地の核となる文化の継承などを通して人々の交流を目的とする「地域交流・観光交流センター」を江戸時代に開設された「郷学所」跡地に整備することにより、文化団体の活動が活性化し、Rojimaなどイベントを通して人の交流が生まれ、文化と商業の融合が図られる。地区全体の活性化が図られることから、現在、空き家や空き地で展開しているRojimaの若者たちや来訪者が住みたいまち、お店を出したいまちとなるため、拠点整備と景観を創出する。
 ③芭蕉記念館の機能を含む地域交流・観光交流センターは「おくのほそ道」「芭蕉と曾良と相楽等躬」などの俳句のまち(俳諧)や歴史的文化や偉人などが外部へ発信され、「文化の継承、交流、体験」などをコンセプトとした事業を展開することにより、観光客(インバウンド)が増加する住民の誇りである文化と歴史を『風流』のまちづくりとして実施することにより、文化団体の活動が活性化され、景観協定(個人建築物)など地域全体の取り組みとして景観に配慮したまちづくりを行い、回遊機能を高めることで文化や景観に導かれた人との交流が生まれ、次世代の人材の育成に繋がる。
 ④地域交流・観光交流センターを拠点とした周辺を「滞在快適性等向上区域」に位置付け、民間事業者が民間空地をオープンスペースとして整備し、来訪者が自由に交流・滞在できる場を提供する「一休型滞在快適性等向上事業」を実施することにより、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。

将来ビジョン(中長期)
 【須賀川市第8次総合計画】
 本市は、東日本大震災から立ち上がり、市民生活のさらなる安定と「復興期」から「発展期」に向けた新たな段階に踏み出しており、まちづくりの基本に自助・共助・公助の理念を据え「市民との協働のまちづくり」を最大限に進め、市民、地域・事業者、行政がそれぞれの役割をもとに連携して一体的に取り組む必要があり、須賀川への愛着と誇り「シビックプライド」を醸成しながら「ともに歩む自治都市」として、希望に満ちた魅力あるまちづくりを進め、市民満足度を一層向上させることにより、住む人、働く人、育てる人、訪れる人、企業など、あらゆる人に「選ばれるまち須賀川」となることを目指している。

一休型滞在快適性等向上事業の計画

・滞在快適性等向上区域の考え方
 風流のはじめ館を拠点とした周辺を滞在快適性等向上区域に設定する。また、沿道の民間事業者と協働し、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。
 ・滞在快適性等向上区域での取組
 市が地域交流・観光交流センターを整備することにより魅力的な空間の創出を図り、また、当施設と隣接している民間空地を民間事業者が整備し一体となったオープンスペースとすることで、来訪者が自由に交流・滞在できる場を提供する「一休型滞在快適性等向上事業」を実施する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	目標値			
				従前値	基準年度	目標値	目標年度
路店deマーケット『Rojima』の出店事業者数	店/年総数	路店deマーケット『Rojima』の1年間で出店する事業者数の実績による。	回遊性の高い施設を整備することにより、その『Rojima』などの活動範囲が広がり、出店事業者数が増加する。	640	H28	1,000	R2
空き家・空き地(駐車場)の減少数	件	定住化促進土地利用等調査による本町、馬町の空き家・空き地の調査件数による。	回遊性の高い景観に配慮した施設を整備することにより、まちづくり会社(株)こぶろ須賀川を主体とし空き家・空き地が減少する。	37	H27	33	R2
まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数	回/年	まちづくり団体や文化団体の活動実績による。	文化団体の活動拠点や回遊性の高い施設を整備することにより、文化活動の促進が図られ、本地区で活動している『Rojima』などとの連携したイベントが増える。	2	H28	10	R2
歩行者交通量	人	滞在快適性等向上区域内の歩行者数	官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出	572	R元	617	R7

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針<資源の再生や活用・風流のまちづくり></p> <p>地域文化や地域資源の魅力を伝える情報発信力の向上、及び、「俳句のまち」として俳句に親しめる景観の形成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化の伝承をとおし、地元住民の交流と新たな来訪者へ向けて地域資源等の情報を発信する「地域交流センターと観光交流センター」を整備 ・地区内の景観形成を促すため、「統一的なデザインの道路」を整備(市道1501号線・市道1502号線・市道1414号線の一部・市道1419号線の一部・市道1426号線) ・地域資源への訪問者誘導や、地区内の風流創出のため、「統一的な地域案内板(サイン)」を整備 ・地区内の風流創出のため、「軒行灯」整備 ・まちづくり団体により、歴史的町並みの創出と問題点を調査し、面格子目かくしを計画的に配置し、景観の向上を図る整備 ・「俳句のまち」として松尾芭蕉が残した足跡をたどる標柱の整備補助 ・伝統文化の継承と来訪者(インバウンド等)への特産品PRの調査・研究 ・南部地区全体の事業評価と地域交流・観光交流センターのモニタリング調査を実施 ・地区内の交流人口増加のため、「まちづくり推進事業(マップ作成・イベントの企画やワークショップ)」の支援 ・地区内の交流人口増加のため、まちづくりPR活動としてパンフレットや資料映像などを作成する<官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出> 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域交流・観光交流センターの整備(基幹事業/高次都市施設) ②市道1501・1502・1414・1419・1426号線(基幹事業/高質空間形成施設) ③地域案内板(基幹事業/地域生活基盤施設) ④軒行灯整備(提案事業/地域創造支援事業) ⑤歴史的町並みの創出・保全(提案事業/地域創造支援事業) ⑥おくのほそ道足跡標柱整備(提案事業/地域創造支援事業) ⑦文化継承と稼ぐまちづくりの調査・研究(提案事業/地域創造支援事業) ⑧都市再生整備計画事業評価(提案事業/事業活用調査) ⑨イベント企画、ワークショップ(提案事業/まちづくり活動推進事業) ⑩PRパンフ、映像資料作成(提案事業/まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p>	
<p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け、中・長期の目標達成を目指し、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を引き続き展開して行く。なお、今後のまちづくり活動に結びつく組織立ち上げを期待する。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <p>各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実に効果を高めるために、事業成果や事業の進め方などについての評価・改善や、今後のまちづくり方策を検討するための事業効果分析を実施する。また、その結果については、ホームページ等により市民に広く情報公開する。</p> <p>○地方再生コンパクトシティの事業実施計画</p> <p>【官民連携体制】</p> <p>(対象の民間事業者)株式会社こぶろ須賀川、特定非営利活動法人チャチャチャ21、須賀川ガイドの会、桔禰吟社(俳句の会)、知る古会、他</p> <p>(民間事業者の役割)地区拠点施設の管理運営や松尾芭蕉の足跡をたどる標柱、軒行灯、面格子目かくし等の景観に配慮した修景施設の整備を主体的に実施する。</p> <p>(行政(官)の役割)文化の継承における市民交流の場と外部へ発信拠点となる「地域交流・観光交流センター」を整備する。また、まちづくり団体の活動(調査・研究)の成果を景観(足跡標柱など)に取り入れ、市民ニーズにあったもの(石畳舗装など)を整備し、市民や来訪者へ向けて発信し、本地区の歴史と文化に触れてもらう。</p> <p>(官民連携体制のもとで実施する取組内容)拠点施設の管理運営等を民間委託することで、文化団体や学校等との連携を密にした郷土の文化継承・偉人顕彰を推進する事業を積極的に展開し、地区へ新しい人の流れを生み出し賑わい創出を図る。また、「俳句のまち」としての魅力を一層伝えるため、「おくのほそ道」において松尾芭蕉が本市に残した足跡をたどる標柱や軒行灯などの整備をNPO法人チャチャチャ21などが中心となって実施する。</p> <p>(地域の活性化・自立化に向けた効果)「地域交流・観光交流センター」は、震災により被災した芭蕉記念館が有する展示機能等を踏襲しつつも、郷土の偉人継承や俳句を中心とする文化の継承、更にはそれらを通じた人々の交流をコンセプトとする新しい施設であり、これら活動を民間や市民団体が中心となり行うことで、継続的に地区の活性化が図られる。</p> <p>【政策間連携体制】</p> <p>(庁内体制)都市整備課、文化振興課、商工労政課、観光交流課、建築住宅課の連携体制のもと事業を推進しており、平成30年度に制定する「須賀川市第8次総合計画」に位置づけて整備・活用を図ることとしている。</p> <p>(連携施策の内容)株式会社こぶろ須賀川、NPO法人チャチャチャ21、須賀川商工会議所などと連携し、須賀川市中心市街地活性化基本計画に基づき、地区内の修景施設の整備や交流拠点施設の整備などの政策間連携が為されている。</p> <p>【持続可能性に係る取組】</p> <p>(事業完了後の自立化に向けた取組内容)第1期計画から軒行灯整備などの『風流』のまちづくりに携わっているNPO法人チャチャチャ21などが中心となり、地元団体との協働体制を確立することで、事業完了後も地元住民が主体性を持ったまちづくりが継続される。</p> <p>(人材育成の取組内容)歴史ある名所や句碑などの地域資源を活用し、文化団体や学校などとの連携を図る事業を展開することにより、文化を通じた地域の結びつきや、郷土の偉人を深く知ることが出来、故郷に対する誇りや愛着が育まれ、新たな担い手が育成される。また、本地区の第1期都市再生整備計画で軒行灯整備などを経験しているNPO法人チャチャチャ21を基盤とすることにより、各文化団体(須賀川ふるさとガイドの会、知る古会、桔禰吟社(俳句の会)、須賀川茶道連合会など)との連携と育成が図られる。</p> <p>(維持管理費の低減の取組内容)第1期計画で整備された馬町広場「結の辻」の日常管理(清掃、草刈り)や植花活動は4町内会で結成された「風流のまち創出プロジェクト」で運営されており、地域交流センターにおいても、敷地内イベントを実施した団体(例えば年10回開催しているRojima)で清掃等を義務付けるなど工夫し、維持管理費の低減を図る。また、提案事業の軒行灯整備補助などについては、NPO法人チャチャチャ21が中心となり桔禰吟社(俳句の会)などが連携し、俳句文化の継承と暗い通りに灯りを取り入れ、景観の向上と防犯に役立ち、その電気代はすべて設置者の負担となる。</p> <p>○一体型滞在快適性等向上事業</p> <p>市による地域交流センター・観光交流センターの整備にあわせ、民間によるオープンスペースの整備を一体的に実施する。</p>	

